



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案 第4巻 第6号
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市生活圏勢力圏社会接触圏（ツヅキ）。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77402
Type	manuscript
File Information	N010_01S28.pdf





HIGH CLASS
NOTE BOOK

都市社会学

二十八年度

特殊言語学

第四卷 第六号

都市社会学部 社会学
社会学部 (社会学)

都市生活圏
勢力圏
接觸圏

[illegible][illegible]

一八七
六八七
四二七

總量を示す。よと云ふ。この社会関係
の總量の中には社会政策の他の面に
おける同様の総量を含まれてゐる。
又、より文化は地域的に固定してゐる。
文化にも若干のものがある。これは
私はこの交通総量による決定したものを
社会的に端を置く。これは都
市協力圏の外なるもの。この協力圏
内に在るものは、更に入る。故にあつては
。この扱は近郊的なもの外周に
あつて。然しこの扱はきき。是もまた其の
かたまりである。(都市に近くてもあたかもは
は周囲の形である。

交通量は増して居る。

[illegible]

1/2

二、日本の前代の統一と概括的に素朴な用語は
あるが、偶々には前代の統一と至る

埃
か
あ

元々國の概念は米田庄吉が先生が
 めと提唱されたものであり、この概念は

34#
24

洋書
 石井の博士全集の邦訳が、
 邦文に換へて、
 お心へ

神を
定むる
徳に
因定
して
其の
方々
に
分
布
す
る
を
神
の
地
域
に
依
り
て
分
布
す
る
を
神
の
地
域
に
依
り
て
分
布
す
る

あ。
又
わ
く
り
た
り
場
合
に
は
そ
こ
に

五水子の社会的
 経済活動に
 伴う工程

右の
地区
の
地域
内
に
井
戸
が
あ
る

如
也。
即
社
多
政
策
が
地

城かゝると共に或はかゝるの如き、
 礼令に於て

11 14 7 2 早生稻 (米) 新米 早生

22

[illegible][illegible]

に役をたつ

少しは、^{都市をとりまいて}住宅の整理をせよといふが、
多分、^{都市をとりまいて}住宅の整理は、
その通りである。かゝる
後、都市生活圏、又はメトロポリ
タンエリアを中心とする住宅によつて
底の整理がなされていくが、私は
次の様な形で整理するに決意
を込めて置く。

此の頃

奥井後五郎氏の東京の都市生活
圏調査は甚大周知である。氏は
都市生活圏を構成する次の四種の
因子を認め、その各々について調査した

果てしなく。

1. 法律因子—都市計画地域、市街地

建築物取締長、借地法借家法（施行
地法）

2. 郵便因子—電話や時差法区域

通達便配達区域

3. 社会的因子—百貨店、名料配達区域

新田市の郵便配達区域

4. 交通因子—定期券交通区域、よ

りて交通力交通区域

たのぬくまは制からしめ、4の

一部分をその中、新法の施行地域

である。社会関係そのものは制定さ

水と紙をい。

矢崎 ^{武夫} 氏の東京の生能一太郎

定は可治しか、コヤ氏の部 ^{生能一太郎} 経済の上

、研究をなす、^{その研究をなす} 調査統計に

於て甚くよくよくある。

そこで、都市より外国に向つて、研究を

する、その程度を示さる。

一人に密着して、その程度を示さる。

高地、低地、四、最低地、低地、

五、高地、低地、六、最低地、低地、

七、自給率、低地、六、最低地、低地、

精實な、高、線、同、も、ある。

[illegible]

「民生生活に於ける」

④ 都市は左の二つの「都市圏」の外に都市を

米の用達の農産品を供給する他の都市と

交流の基に、地域を認め、その中心を

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

それは、都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

あり。

4の定数若くは定数は、通過する点
の分布地域であり、他の定数は、
的であり、都市に依る本質的な
面をみる。人の分布地域である。

それは、都市生活地域ではなく、都市

⑤ 都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

都市圏の中心として、その中心は「都市圏」の

この
は上下関係に於ける支配であつてその結果

経済的交渉に於ける

経済は主としてその支配関係の結果

となつてゐる。社会経済生活の結果の

支配の

にしろんやうに於ける経済結果であるが、その

の傘下には、同様に支配の關係がある。

都市には当然に支配（差）がある。

次に都市と農村の支配してゐるのは

なにか、その勢力下に置くことによる。図に

ある。この二つの圏の間の支配である。

これは支配してゐる圏の中心に於ける都市が

に支配してゐる圏である。その中心に於ける

は、農村の中心地、即ち回轉点の

地である。即ち、農村の中心地である。

以上の如く五人は次の五種の都市圏を

考へてゐる。

一、都市生活圏 都市生活圏の範囲
電気交通の発達

二、都市圏 都市圏の範囲
交通の発達

三、都市圏 都市圏の範囲
交通の発達

四、都市圏 都市圏の範囲
交通の発達

五、都市圏 都市圏の範囲
交通の発達

一、都市生活圏 都市生活圏の範囲
電気交通の発達

都市

* 郊外は都市生活圏として理解する
 ものであり、郊外は都市生活圏
 の付帯に属するものとして理解する

の外周として知らるべきものである。これ
 は強いていって、都市生活圏の分析
 による決定事項である。
 二、都市生活圏の付帯は、都市生活圏
 生活圏の圏外にあるものとして理解する
 ことである。これは強いていって、都市生活圏
 の分析による決定事項である。
 この圏外は、都市生活圏の分析による決定事項
 である。これは強いていって、都市生活圏
 の分析による決定事項である。

五

う、4、1、新、映、画、物、の、一、巻、で、あ、る。
二、三、は、歌、集、の、自、傳、を、記、載、し、た、り、4、4、
た、り、あ、る。う、4、才、形、取、り、の、新、同、踏、後、を、

(要) は、是れぐの工リヤであらう。然し其に

又、この二ヶ所に、
の如くとして、
既、
一、
九、

しちてゐる。地域的に林業が盛んである。昭和三十八年

家の園に於ては金匱の地球は有り、と云ふが
如し一應都市勢力圏として記述するべきであらう。

十の^二~~五~~巻の^一は^二都^一と^三洛^四(卷)

方⁵の都市勢力圏
 ④ 順次に其地

域の拡大を拡大して居るとは云へない。


 水曜の教方(巻)に
 水曜の支那(考)と

(3) 一又少々
又安しく
支配(者)と

云つては強治上の支配(國)は政治的支配
(國)とは異なる領域を有して居る。此れが
も都市國家概念からこの年下の現
在に至る支配として國に於ては國土
柄の國に於てはとて脱離する事であ
る。

交通(國)國土(國)は常に都市に依
存するものたる先述を要する人の所
ある(國)として脱離する事である。

交通(國)國土(國)の結果によつて交通
(國)と交通(國)はもとより、交通
(國)と交通(國)の範疇にあるのか、
大抵。

都市生活圏と都市伝存圏
 商業取引地域は都市伝存圏と見られる
 支配圏

[illegible]

都市内上の社会的交流が著しく
多くなっている(表)

七、利用者の範疇は果に之。
 八、都市をとりまく社会
 九、都市をとりまく社会
 十、都市をとりまく社会
 十一、都市をとりまく社会
 十二、都市をとりまく社会
 十三、都市をとりまく社会
 十四、都市をとりまく社会
 十五、都市をとりまく社会
 十六、都市をとりまく社会
 十七、都市をとりまく社会
 十八、都市をとりまく社会
 十九、都市をとりまく社会
 二十、都市をとりまく社会

試4

す。あつてある。北見市

二、延喜寺の帯広旭川に於ける運動

園運動会、通啓園の調査は都

市伝存園をやり、秋葉によつて

と一へ、片より、この北見市に於ける文化園

三、本邦の金島によつて北海道文化園

を決定したのは金道各都府に於ける

策降表、調査、金道各都府に於ける

、市外、通啓局、調査、調査、調査

によつて、北見市、調査、調査、調査

たものである。

四、佐治市、仙基市に於ける仙基市

機関を

を中心とした構図とする。予後官庁
各種民営企業体の地域的支配関係
を明らかにしたのは都市圏^{支配}の研
究^{研究}外である。

五、都市を中心とする。マス・コミュニケーションの
この地域については既に色々の調査結果
が得られて居る。然し、ラチオ地方政
治や放送局、商店の地域、地方新聞
増産と地域、如きは主要目的のため
に調査されて居る。

六、都市の外周に及ぶ。社会圏^{社会}について
は従来の都市社会学が最も力を入れた

これとある年をふくむからして同じである。

五二二九

研究領域である。本年そのほか
各局の調査も研究発表も月々
増える。